

和泉国南郡福田村福原家文書目録

貝塚市教育委員会編
 大阪 編者発行 1993. 3
 612p 26cm

和泉国南郡福田村（現大阪府貝塚市福田）の福原氏所蔵文書の整理事業の成果をまとめた報告書である。

同家は岸和田藩領であった同村の庄屋を代々勤めた家柄で、大庄屋格である「七人庄屋並」を勤めた時期もあった。

この文書群は同藩の支配をはじめ、水利、枝村である嶋村のこと、福原家の経営等々多岐にわたるもので、その点数は2万1千点余に及ぶ。本書ではそのうちの約1万6千点の目録を、文書群の性格に合わせたきめ細かな分類を施して収録している。ほかに口絵、詳細な解説や付表も含め、612ページの大部となっている。

本書の特色として挙げたいのは、解説で整理の過程が詳しく述べられている点である。3度に分けて行われた整理の経緯や、文書番号のふり方、パソコンを利用した目録編成の方法などにページが多くさかれており、整理した結果だけでなくその過程を記録する姿勢はおおいに評価したい。

とりわけ1節を設けて言及しているのがパソコンの利用についてである。まず導入にあたっては、先行事例を文献で把握し、京都や東京の実情を視察するなど情報の収集につとめ、きわめて慎重に検討している。

目録の編成については、市販データベースソフトの「桐」Ver.4を使用。①整理の過程で作成した文書1点ごとのカードの内容を入力、②データの校正、③分類項目別・年代順に並べ換え、④プリントアウトしてこれを本書の版下とする、といった手順で行われた。

各地の先行事例をみると、おそらく③まではどこでも行うことであろう。斬新と思われるのは④である。従来の方法では、パソコン

を使って整理しても、目録の公刊の段階では、そのデータを印刷業者が写植機にかけるか、もしくはタイプを打ち直すという工程が加わり、さらにその校正が何度か必要となった。しかし本書の場合、プリンタで出力したものをそのまま版下とすることで、その後の手間が一切省け、その結果、作業の効率化、時間の短縮に効果があったばかりか、印刷コストの削減にもつながったという。今回使用したプリンタの機種が明記されていないのは残念であるが、プリンタの精度によっては、つまり打ち出した文字が写植文字と比べ遜色ないのであれば、このような方法も有効であることを本書が示してくれた。

さらに解説では、福原家文書のデータ検索サービス、近隣市町村まで広げた地域史料データベースのネットワークなど将来の展望にも言及する。データ入力をするのが、単に目録の作成だけでなく史料の管理・利用全体に有益であるとの考え方は、多くの自治体史編纂や史料保存利用機関に影響を及ぼすものであろう。

高木秀彰・寒川町史編さん課